

平成30年度自己評価結果公表シート

学校法人清泉学園 ひばり幼稚園

1. 本園の教育目標

知育・体育・徳育の調和の中で、総合的な活動を通し、心身の成長を育む。
 ・プール、体育で健康な心身を育てる
 ・音楽リズム、絵画制作等を通して優雅な情操を養う。
 ・自然観察をする機会を多くする。
 ・昔からの行事を生かして、郷土に密着した教育につとめる。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

・本園の教育課程、指導計画の再確認を行い、内容を検討し、自己評価・自己点検を実施することにより、教員自ら客観的に自園を見る目を養い、保育内容の改善、施設の改善に取り組む。
 ・研修等を通じ、教員の専門性・資質を向上し、保育に反映する。

3. 評価項目及び取り組み状況

評価項目	取組状況
教育課程の編成・実施に関して、教職員間の共通の理解をはかる。	新しく教育要領が改訂され「小学校に就学するまでに身につけたい10の姿」が示されました。そこで、本園の教育課程の再確認・見直しをし理解を深め、園長・学年主任でねらいをたて、保育に反映させている。
教育課程・子供も実態等に基に、指導計画を作成する。	教育課程に基に、学年毎に指導計画を作成し、保育に反映させる。課題を学年毎に園長と話し合い、子供の実態即した内容に加筆・訂正を行う。
子供の実態を的確につかみ、具体的に手立てを講じ保育を進める。	教員は日々保育記録を参考にし、子供の実態を把握し、日案の作成に反映させる。
教員の資質、教育の向上のために、研修等に積極的に参加する。	夏休みを利用し、園外の研修に積極的に参加している。全員が参加できない場合は、職員会議等において提供し、共有化を図るようにする。園内では、音楽・マーチング・体育の研修を実施。また、学期毎の職員会議に加え、各行事の反省会や日々の日礼で、気づいたことを話し合い、教員一人一人の資質の向上につなげる。
保育・行事を通して、工夫したり、友だちと協力することの喜び、大切さを感じ、達成感を味わう。	自ら工夫したり、友達との協力する喜び・大切さを感じられる保育環境・保育を準備・提供する。
学期毎に各クラスの運営成果と課題を報告す、全職員が把握する。	各クラスでの月や週の目標を定め、毎学期毎に達成状況を報告し合う。
子育て支援の充実	日々の預かり保育を実施し、保護者の急な用事（兄弟の学校行事等）に対応する。また、仕事をお持ちの方、お持ちでない方も、余裕をもった子育てができるように預かり保育を活用して頂く。 夏休み期間中の預かり保育の内容をさらに見直し、普段の保育ではできないような活動を取り入れている。結果、多くの方に利用して頂いている。 長期休暇中のなかよし教室実施のニーズは年々多くなっている。できるだけ、多くの日数を実施できるよう検討する必要がある。 未就園児教室（2歳児）、未就園児親子教室（2歳児）も内容を見直し、子育て支援の充実をはかった。 また、和泉市から委託を受け、2歳児一時預かり事業も開始した。
防災・安全対策の充実	消防署の方にご協力頂き、火災避難訓練・地震避難訓練を実施しました。また、実際に消防署

	に出向き、防災訓話を聞いたり、施設、車両の説明を受け、より一層防災に対する意識が高まった。 また、安全面では、佐川急便の方にご協力頂き、より実践に近い交通安全指導をすることができた。これらの取り組みから、園児・教職員に安全に対する、より一層の意識・課題を確認することができました。
園だよりやおたよりをとおして、幼稚園の情報を発信する。	園の教育方針や取り組み内容を情報発信するように、園だよりやおたよりに記載し、より一層積極的に取り組んでいく。
小学校・大学や地域との連携について	進学に向けて、年長組は和気小学校に訪問した。小学校の先生に案内して頂き、見たり、聞いたりし、進学への期待を膨らますことができた。桃山学園大学の学園祭に訪問し、学生たちの催しを見学し、交流を持った。 和泉市主催のIZUMIキッズフェスティバルに参加した。地域とのつながりにおいては、非常に良い機会ですので、次年度以降も機会があれば参加を検討したい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教育課程の再確認・見直し、行事毎の反省会、日々の職員会議を通し、保育の取り組むべき課題と園の方針を、全職員が理解を深め、共有化することができた。 また、それぞれ教員が自己評価し、取組状況を報告し合う事を通じ、各々の課題を具体的に確認することができた。また、全職員が、園児一人ひとりの情報を共有し、園児に対してのかかわり方、保育活動の進め方の理解を深めることができた。引き続き、実践していきたい。 園外研修にも積極的に参加し、教員一人一人の資質の向上でき、専門性を高めることができた。 子育て支援については、毎年内容の見直しをし、より一層充実をはかった。</p>

5. 今後の取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
教職員のより一層の資質・専門性の向上	教職員の資質・専門性の維持をはかると共に研修等へ積極的に参加し、より一層の資質・専門性の向上につなげ、保育に反映させる。
教員としての基本姿勢を周知徹底	全教職員がよく理解できていることではあるが、今一度各々が再確認に、保育に努める。
保育環境・施設の整備	園舎の屋上の防水工事・塗装工事を行った。 また、台風等で被害を受けたため、今後環境整備面のより一層の充実を図りたい。

6. 学校関係者評価委員会の意見

特に指摘する事項もなく、適切に運営されていると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に園運営されていると認められた。
